

令和3年度 学校評価報告書

学校名	三田市立ゆりのき台中学校
-----	--------------

1 学校教育目標

「命」と「心」を大切に、「夢」を描き、輝かしい「未来」に向け前進する生徒の育成

2 今年度の学校重点目標

私たちの誇り 心と 心のゆりのき台中学校
 子ども・・・学校が楽しい、この学校が好きと思える学校
 保護者・・・通わせてよかったと思える学校
 地域住民・・・ともに歩んでよかったと思える学校
 教職員・・・勤務してよかったと思える学校

3 総合的な自己評価

創立30周年の今年度、『命』と『心』の学校ゆりのき台中学校は、「学校改革」を具現化し、次世代へ向けて新たなるスタートを切ることができた。

学校評価アンケートの結果、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と回答した割合の合計（以下「肯定的評価」という。）は、生徒では14項目で、保護者では全15項目で70%以上であった。また、「生徒指導」「教育相談」「生徒会活動」「開かれた学校づくり」「感染症対策」「総合」「学校教育目標」の7項目で、生徒、保護者ともに肯定的評価が90%以上となった。しかしながら、生徒と保護者の肯定的評価に、「進路指導（キャリア教育）」「防災教育」の2項目で、10%以上の差が生じた。さらに、「特色ある学校づくり」は、生徒、保護者ともに肯定的評価が80%未満と低位だった。最後に、総合（「学校生活は充実しているか」）では、肯定的評価が、生徒、保護者ともに90%以上となっている。肯定的評価が、生徒は3年連続して上昇しているが、保護者評価は昨年度よりわずかに下降している。

生徒会活動（「生徒会活動は活発に行われているか」）では、肯定的評価が、生徒、保護者ともに90%以上となっている。「生徒会」は、『命』と『心』の学校ゆりのき台中学校の要である。「コロナ禍」は続いているが、生徒会を中心にして、生徒たちは「生活のきまり（=校則）」の改正や「創立30周年記念事業」など「楽しみ方改革」を見事に結実させてくれた。

今年度も、保護者の皆様にはほとんどご来校いただけず、学校生活の様子について十分に理解していただくことができなかった。それにも関わらず、学校や先生への感謝の記述を数多くいただき恐縮している。今後は、子どもたちから学んだ「楽しみ方改革」の精神を「学校改革」に生かし、ゆりのき台中学校が「みんな」にとって良いと思えるものするため、全身全霊で邁進したい。

4 総合的な学校関係者評価

長引く「コロナ禍」、先の見えない不安に包まれ、失ったものを数えてしまいがちな私たちは、変わらなければならない新しい生活の中で、困難をチャンスに変える取り組みを重ねてきた生徒たちの姿に、いつも励まされ、勇気をもらっていた。また、地域の方々からも感謝の声を聞いている。地域住民の一人としても心から感謝の意を伝えたい。「命」と「心」を大切に教育に、学校に関わるすべての人の温かい眼差しと思いが繋がり、子どもたちの力となり、数値では測れない心の育ちがたくさんあったと感じている。

ゆりのき台中学校は、さまざまな行事や日常の取り組みに関して、独自性を大切にしながらやってきたように感じている。200名を超える大集団が2度の延期をも乗り越え修学旅行に行けたことにも感謝している。地域の声も大事に受け止めてくれた。学校地域運営協議会ではうわべではなく、委員を信用し、学校の根幹に関わるどころまで誠実に話してくれたことに感謝している。

「コロナ禍」がいろいろなことを考えるよい機会となった。「緑化」と「図書」、本校で長く続くボランティアの皆様は、「コロナ禍」でもできる、そして「コロナ禍」だからこそできる支援を続けてくださった。学校は、大きな課題である「特色ある学校づくり」を進めるためにも、保護者や地域の皆様の巻き込むことで学校の応援団を増やし、子どもたちのため学校支援ボランティアの活用を進めてほしい。

「創立30周年記念式典」では、子どもたちが主体的に企画・運営を進める姿を心に刻むことができた。また、学校地域運営協議会での生徒会とのミーティングをとおして、校則（生活のきまり）改正を始めとする「楽しみ方改革」を実感することもできた。来年度以降も、「生徒ファースト」の学校運営に期待したい。

5 評価結果

分野・領域	自己評価			学校関係者評価
	評価項目（取組内容）	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
命と心の教育	・「命」と「心」を大切に教育を推進する。	・学校教育目標（「学校は、学校教育目標の達成に努めているか」）では、肯定的評価が、生徒、保護者ともに90%以上となっており、昨年度より、保護者の肯定的評価が5%以上上昇している。生徒が常に、学校教育目標『命』と『心』を大切に、「夢」を描き、輝かしい『未来』に向け前進する学校を意識し、目標の達成に向けて学校生活を送り、またそれを保護者の皆様がしっかりと支えて下さったことの成果であると感謝している。	・『命』と『心』の学校ゆりのき台中学校は、肯定的評価100%を目指し、生徒の皆さん、保護者の皆様と心をつなげて前進する。 ・「コロナ禍」のなかの「防災訓練」の在り方に問題がある。防災教育を「命」の原点と捉え、地域の皆様とともに組織的に取り組みを強化していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいを避けることが求められるなか、ピンチをチャンスに変える取り組み「楽しみ方改革」に勇気をもらった。 ・「命」と「心」は大切である。かけがえのない「命」を守るため衛生支援員さんの2年間の功績はとても大きい。来年度もぜひ雇用継続をお願いしたい。 ・小学校では「コロナ禍」のなかでもボランティアの活用ができた。中学校も創意工夫し、学校支援ボランティアの活動を進めてほしい。
	・「道徳性」や「共生」の心を育む教育の充実を図る。	・「道徳、人権教育推進委員会」を毎週開き、この教育の充実を図ることができた。しかしながら、学校生活のなかで人権尊重の精神に反する言動が見られることもあり、適宜適切に対応することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も委員会を中心に、「子どもの権利条約」に鑑み、ひとりひとり人権保障とさらなる人権意識の向上に、PDCAサイクルに基づき取り組む。 ・「生活のきまり（=校則）」を時代に即したよりよいものにしていくため、生徒会とともに考 	

			えることにより、「共生」の精神の醸成を図る。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「新型コロナウイルス」感染症から生徒の「命」と「心」を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策（「学校として『新型コロナウイルス』感染症対策が十分になされているか」）では、肯定的評価が、保護者、生徒ともに95%以上となっており、昨年度より、肯定的意見が生徒、保護者ともに上昇している。生徒の皆さんの誠実な態度、保護者の皆様のご支援、衛生支援員の皆様のご尽力が成果として表れていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、教室内観測や感染と予防のメカニズムについての研修など、科学的な見地を重視し、PDCA サイクルに基づき組織的に取り組みを継続していく。 	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的対話的で深い学びを追求する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導（「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われているか」）では、肯定的評価が生徒は90%以上、保護者は85%以上と高い数値だが、生徒については学年が上がるごとに5%程度ずつ下がっている。これは「学習に対する意識が高い学年ほど高くなることによるものと考えられる。また、保護者の肯定的評価が生徒より低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「学び」に対するニーズに応えられるよう、次年度が最終年となる三田市教育委員会特別指定「『情報』教育」の研究を、分かりやすい授業の開発と指導と評価の一体化に繋げていく。また、積極的な保護者への情報発信をより丁寧に進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強ができるできないだけに目を向ける風潮は未だ私たちの周りに残っている。いろいろな道があるということ、キャリア教育の更なる充実により、子どもたちにしっかり伝えてほしい。 ・学級閉鎖や出席停止期間中の「タブレット」の活用で課題がある。リモート授業は、子どもたちに安心に繋がっている。ハイブリッド型の授業も視野に入れながら、積極的に小学校と連携し、さらなる活用を進めてほしい。 ・雑学が体験できる学校にしてほしい。そのためにも日本文化の伝承が必要である。休耕田を利用した米作りや茶作り等の体験的活動を、教育課程に取り入れてはどうか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的自立に向けたキャリア教育、進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われているか」）では、生徒の肯定的評価が90%以上あるが、保護者の肯定的評価が、生徒より10%以上低くなっている。保護者の評価については、進路説明会もあり学校からの情報を受けやすい状況があるからか、3年生においては肯定的評価が高いが、1、2年生では保護者の評価が低くなっている。これは、キャリア教育と進路指導について十分な理解を得られていないことによるものであると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の意義とその学習内容について情報発信を丁寧に行っていく。また、「キャリアパスポート」を核として「キャリア教育」の研究を校区内4小中学校で連携して推進する。 ・今年度も昨年度に引き続き、従来の形での「トライやる・ウィーク」は実施できなかった。地域の協力を得ていろいろな話を聞く機会があったが、来年度は「コロナ禍」における「トライやる・ウィーク」の充実を検討していく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報」教育の推進をとおして、変化の激しい時代を生き抜く力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの自由記述にタブレットに対して「使用方法の改善」や「使用状況についての不安」など複数回答があった。逆に生徒からは「ごく一部の悪用にとらわれず積極的使用を継続してほしい」という提言も多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から自主的にタブレットに触れられるよう、「ミライシード」の放課後学習コンテンツの充実とアップデートなど持続的に環境を整えてほしいという提言が出されている。子どもたちのニーズに応え、変化の激しい時代を生き抜く力を育む「情報」教育を推進していく。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の内面に対する共感的な理解を深め、一人一人の良さや可能性をより発揮できるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導（「あいさつやマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が丁寧にされているか」）では、肯定的評価が、生徒、保護者ともに90%以上となっている。生徒会活動を始め学校生活すべてで、共感的理解と可能性追求を理念とするさまざまな取組が成果として表れていると考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共感的理解に完全はない。生徒の意識や行動の変化を的確に把握し、カウンセリングマインドをもって一人一人の個性を尊重した指導を行うため、今後もさらに研修を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コロナ禍」で私たちは貴重な体験をした。この経験は、次代、次々世代への礎となった。生徒たちは、厳しい状況のなかでも、できること、やれることに感謝することが大切であるという精神のもと、「楽しみ方改革」を見事に成し遂げた。 ・学校地域運営協議会での生徒会とのミーティングから生徒が主人公の学校の姿を実感できた。このスタイルを今後も大切にしていきたい。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの果たす役割は大きい。週一日の配置ではなく、毎日の配置を進めてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりを軸とした、いじめ、不登校、問題行動の未然防止と迅速かつ的確な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題（「学校として、日頃からいじめの早期発見・早期対応に取り組んでいるか」）では、肯定的評価が、生徒、保護者ともに85%以上となっている。しかしながら、「不安を感じている」という意見が自由記述に複数見られることを重く捉えている。 ・不登校については、別室登校の更なる充実と三田市適応教室「あすなろ」やその他のフリースクール等との連携を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめを絶対に許さない学校」として、「いじめガイドライン」にもとづき、いじめ対策チームを中心に、PDCA サイクルに基づき計画的かつ組織的に対応できるよう最善を尽くす。 ・来年度は「いじめガイドライン」の改定に取り組む。生徒ひとりひとりのかけがえのない「命」と「心」をいつもいつまでも守りぬく「ガイドライン」目指し、改定に臨む。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関の活 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談（「先生やカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどが必要な時に相談に応じてくれるか」） 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、「教育相談」の充実を重点課題として、担当への専門性の強い人材の登用により、体 	

	用)の充実を図るとともに、生徒、保護者への積極的支援に努める。	では、肯定的評価が、生徒、保護者ともに90%以上となっている。カウンセラーやソーシャルワーカーによる相談体制が定着していると評価できる。	制の拡充を図り、一定の成果を得た。来年度はより一層の強化と深化に努める。 ・SC、SSWともにニーズが極めて高く、待機相談者が問題となっている。相談機会の不足分を補完するシステムの構築を、教育委員会とともに図ることが喫緊の課題である。	
信頼される学校づくり	・三田型コミュニティスクール(学校地域運営協議会)を基盤として、ふるさと(地域)の誇りとなる中学校づくりを推進する。	・特色ある学校づくり(「地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいるか)では、他項目に比べ肯定的評価が低く、満足度は生徒、保護者とも80%を下回っている。 ・「三田型コミュニティスクール」の取り組みは2年目を終え、活動も充実してきている。「コロナ禍」のなか、予定どおりの活動はできなかったが、それでも特色ある学校づくりを前に進めることができた。そのことが、生徒、保護者ともに肯定的評価の上昇、保護者については5%以上の上昇に繋がったと考えられる。	・創立から30年を迎え、ふるさと(地域)の学校としての役割が大きくなっている。コミュニティスクールへの保護者、地域の理解を高めるとともに、学校地域運営協議会により、少子高齢社会における学校の在り方について議論を深めたい。 ・本年度1月に生徒会を中心に校則の見直しを行った。また、創立30周年記念式典では生徒会や地域の皆様とともに「特色ある学校づくり」に努めた。今後も生徒会等から生徒の意見を反映させて「特色ある学校づくり」に努めていく。	・「三田型コミュニティスクール(学校地域運営協議会)」の知名度が低い。学校からの発信の必要性を強く感じている。 ・「コミュニティスクール」を活性化していく上で、PTAとの連携は大切である。学校支援ボランティアの活用を進めるためにも、コーディネーターの果たす役割は大きい。もっとボランティアさんに入ってもらって楽しい学校づくりに繋げてほしい。 ・学校の課題を共有し、「みんな」で話し合い、周りの援助を得ることが大切である。
	・創立30周年記念事業をとおして、生徒と地域、学校と家庭、地域との繋がりを深め、地域に開かれた学校づくりに努める。	・開かれた学校づくり(「学校だよりやホームページなどによって、学校の情報は適切に伝えられているか)では、コロナ禍の影響で「オープンスクール」「授業参観」を中止し、「学校行事」を無観客で行わざるを得なかった。ホームページ、学校だよりでの情報発信を行い、それにより肯定的評価が、保護者、生徒ともに90%以上となっている。自由記述に「授業や行事を参観できる機会を持ってほしい」という要望が多く、来年度は柔軟な行事運営を実施していく。また、アンケートでは、「見づらい」や「部活の結果を載せてほしい」などホームページへの保護者の提言も複数みられた。	・「創立30周年記念事業」は本校に大きな変革をもたらした。公式キャラクターとテーマ曲も誕生し、本校が年輪を刻んでいくうえでのシンボルとして活躍してくれるであろう。また何よりも、生徒の主体性の大きな伸長と愛校心の醸成に繋がったことは明白である。この経験を次は、生徒自身がふるさと(地域)自治に主体的に携わることにより、真の「開かれた学校づくり」を実現したい。 ・「コロナ禍」にあっても、科学的見地に基づく創意工夫により保護者、地域の皆様にご来校いただける機会を設定する。 ・地域の人が自由に来られる部屋を小学校のように設けてほしいという願いを受け、今年度は部屋を確保したが、来年度は学級増により確保ができない。部屋の代わりとなるものを、学校地域運営協議会と協議していく。	
学力向上指導改善プラン	・主体的に学ぶ子どもの育成	・生徒会による「楽しみ方改革」や「創立30周年記念事業」「学年集会」などの企画と運営など、本年度本校の教育活動には、「主体的に学ぶ子ども」の姿があった。 ・全国学力学習状況調査では、「国語」「数学」とともに良好な結果が得られたが、ここにも小学校から一貫して進めてきた主体的な学びが表れている。	・学校教育目標『「命」と『心』を大切に、『夢』を描き、輝かしい『未来』に向け前進する学校』実現の鍵が生徒の主体性にあることは、今年度の取り組みにより明白となった。今後も『「命」と『心』の学校』にふさわしく、生徒の主体性を尊重し、「子どもファースト」の精神で学力向上と指導改善に努めていく。	・子どもたちが3年間をどう過ごしていくか、学校教育目標に関わる人たちで共有し具体化し、コミュニケーションをとりながら進めていければと思う。主体的に学ぶ子どもたちを育成するためにも、また教職員の資質向上のためにも、常にアップデートしていくことが大切である。
	・教職員の資質向上	・今年度、三田市教育委員会特別指定研究「情報」に取り組んだ。教員評価アンケートの結果、タブレットなどICT機器を活用した授業を行った教員の割合は100%となった。道徳や体験活動を含めた全教科・領域を研究対象として、学んだことを主体的に活用し、応用・発展しているような授業展開や教材開発について、全教員による校内研究会等を通して研究と修養に努め、その結果、研究風土は醸成された。	・三田市教育委員会特別指定研究「情報」は研究半ばである。本校では常に「生徒ファースト」の精神で教育活動を行っている。タブレットなどICT機器の使用についてもこの精神を貫き、生徒の自主性・創造性を大切しながら研究を深める。 ・今年度研究の成果は三田市教育研修所の献身的な支援によるところが大きい。令和4年度もこの連携を基軸に研究を進め、	

	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に一度、教員対象の授業公開期間を設けた。自主的にすべての教員が相互に授業公開を行い、授業力を高めることができた。来年度も今年度に引き続き、三田市教育委員会特別指定「情報」教育の研究を推進することにより、教職員の資質向上を図る。 	生徒の豊かな心の育成と学力向上のため、教職員の資質向上に努めていく。
--	--	------------------------------------

※行は、適宜加除願います。

6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
4 月	学校教育目標・重点目標等推進計画立案と公表
	学力向上指導改善プランの作成
10 月	学力向上指導改善プランの中間検討
12 月	学校評価アンケート調査（保護者、教職員・生徒）
1 月	学校評価アンケート集約と分析
	学力向上指導改善プラン結果分析
2 月	学校自己評価作成（分析・改善策）

7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
4 月	第1回評価委員会
1 月	第2回評価委員会
3 月	第3回評価委員会

※学校自己評価…外部（児童生徒・保護者・地域等）アンケートの実施を含む

8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
5 月	学校だより、ホームページ	学力向上指導改善プラン・学校評価計画の公表	
12 月	学校だより、ホームページ	学校評価アンケートの公表1	
1 月	学校だより、ホームページ	学校評価アンケートの公表2	
2 月	学校だより、ホームページ	学校評価アンケートの公表3	
3 月	保護者宛文書	学校評価アンケートの公表4	
	学校だより、ホームページ	学力向上指導改善プラン（年度末評価）の公表 令和3年度学校評価報告の公表	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います